

緊急安全対策に係る実施状況報告書等の再提出について

当社は、平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震以降、国からの指示により提出した以下の報告書において一部記載の誤りを確認し、本日、経済産業大臣、原子力安全・保安院長に訂正した報告書を提出しました。

- (1) 「平成23年福島第一・第二原子力発電所事故を踏まえた緊急安全対策に係る実施状況報告書（東海第二発電所）（敦賀発電所）」

(H23.4.22 提出) において4箇所
【経済産業大臣に提出】

- (2) 「平成23年福島第一原子力発電所事故を踏まえたシビアアクシデントへの対応に関する措置に係る実施状況報告書」

(H23.6.14 提出) において2箇所
【経済産業大臣に提出】

- (3) 「原子力発電所等の外部電源の信頼性確保に係る開閉所等の地震対策について」

(H23.7.7 提出) において1箇所
【原子力安全・保安院長に提出】

今回の記載誤りについては、それぞれの評価結果に影響はありませんでしたが、今後、チェック体制の強化を図り、再発防止に努めてまいります。

添付資料：訂正前後比較表

以 上

問合せ先：日本原子力発電株式会社
広報室 荻野・川端
TEL：03-6371-7300

「平成23年福島第一・第二原子力発電所事故を踏まえた
緊急安全対策に係る実施状況報告書」訂正前後比較表

【訂正箇所】(東海第二発電所)P34:添付資料－12

訂正前

可搬式動力ポンプ・消防ポンプ及び消火ホースの配置 1

復水貯蔵タンクへの給水

水源	ポンプ形式	ポンプ仕様	設置 台数	設置ホース数	配置完了日
サービス建 屋受水槽	可搬式動力 ポンプ	0.7MPa, 1.0m ³ /min 以上	1 台 ※	<u>15本</u>	－ (既設)
	消防ポンプ	0.85MPa, 2.8m ³ /min 以上			
海水	可搬式動力 ポンプ	0.7MPa, 1.0m ³ /min 以上	1 台 ※	17本	－ (既設)
	消防ポンプ	0.85MPa, 2.8m ³ /min 以上			

※可搬式動力ポンプ又は消防ポンプのいずれか 1 台

訂正後

可搬式動力ポンプ・消防ポンプ及び消火ホースの配置 1

復水貯蔵タンクへの給水

水源	ポンプ形式	ポンプ仕様	設置 台数	設置ホース数	配置完了日
サービス建 屋受水槽	可搬式動力 ポンプ	0.7MPa, 1.0m ³ /min 以上	1 台 ※	<u>17本</u>	－ (既設)
	消防ポンプ	0.85MPa, 2.8m ³ /min 以上			
海水	可搬式動力 ポンプ	0.7MPa, 1.0m ³ /min 以上	1 台 ※	17本	－ (既設)
	消防ポンプ	0.85MPa, 2.8m ³ /min 以上			

※可搬式動力ポンプ又は消防ポンプのいずれか 1 台

訂正内容の説明

【訂正箇所】

東海第二発電所の復水貯蔵タンクへの給水におけるサービス建屋受水槽の設置ホース数について、誤った数値を記載していたため、正しい数値に訂正する。
(本資料では、訂正箇所を下線で表示)

【確認結果】

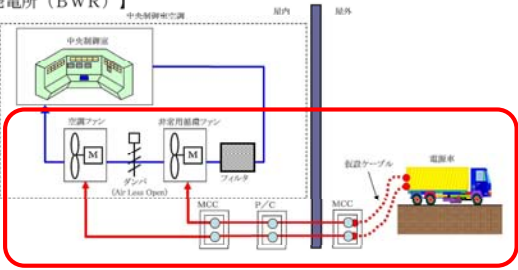
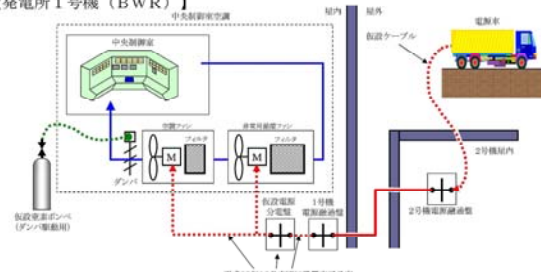
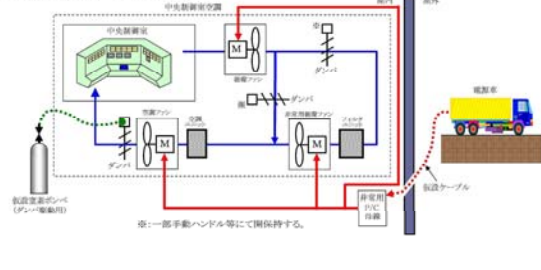
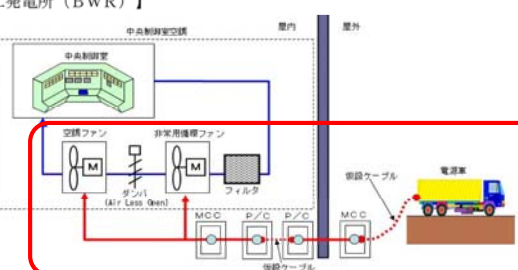
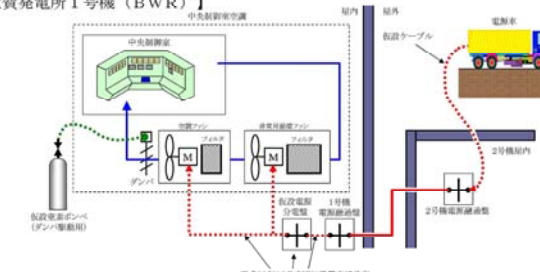
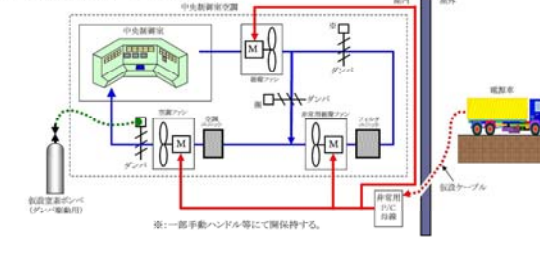
実際には、必要数に対して余裕をもった24本のホースを配備しており、復水貯蔵タンクへの給水に影響はない。

「平成23年福島第一・第二原子力発電所事故を踏まえた
緊急安全対策に係る実施状況報告書」訂正前後比較表

【訂正箇所】(敦賀発電所)P41:添付資料－5(2)

訂 正 前	表 2-2 燃料取出スキーム（敦賀 2 号機定検時取出燃料及び敦賀 1 号機より移送した燃料） <table> <tr> <th>取出燃料</th><th>冷却期間</th><th>燃料数</th><th>崩壊熱（MW）</th></tr> <tr> <td>定検時取出燃料 3</td><td><u>7. 5 日</u></td><td>57 体</td><td>2. 417</td></tr> <tr> <td>定検時取出燃料 2</td><td><u>7. 5 日</u></td><td>68 体</td><td>2. 791</td></tr> <tr> <td>定検時取出燃料 1</td><td><u>7. 5 日</u></td><td>68 体</td><td>2. 602</td></tr> <tr> <td>小計（以上敦賀 2 号機定検時取出燃料）</td><td></td><td>193 体</td><td>7. 810</td></tr> <tr> <td>12サイクル冷却済燃料</td><td>12×（14ヶ月＋45日）</td><td>21 体</td><td>0. 005</td></tr> <tr> <td>11サイクル冷却済燃料</td><td>11×（14ヶ月＋45日）</td><td>56 体</td><td>0. 015</td></tr> <tr> <td>10サイクル冷却済燃料</td><td>10×（14ヶ月＋45日）</td><td>56 体</td><td>0. 016</td></tr> <tr> <td>9サイクル冷却済燃料</td><td>9×（14ヶ月＋45日）</td><td>56 体</td><td>0. 017</td></tr> <tr> <td>8サイクル冷却済燃料</td><td>8×（14ヶ月＋45日）</td><td>56 体</td><td>0. 019</td></tr> <tr> <td>7サイクル冷却済燃料</td><td>7×（14ヶ月＋45日）</td><td>56 体</td><td>0. 021</td></tr> <tr> <td>6サイクル冷却済燃料</td><td>6×（14ヶ月＋45日）</td><td>56 体</td><td>0. 024</td></tr> <tr> <td>5サイクル冷却済燃料</td><td>5×（14ヶ月＋45日）</td><td>56 体</td><td>0. 027</td></tr> <tr> <td>4サイクル冷却済燃料</td><td>4×（14ヶ月＋45日）</td><td>56 体</td><td>0. 032</td></tr> <tr> <td>3サイクル冷却済燃料</td><td>3×（14ヶ月＋45日）</td><td>56 体</td><td>0. 040</td></tr> <tr> <td>2サイクル冷却済燃料</td><td>2×（14ヶ月＋45日）</td><td>56 体</td><td>0. 053</td></tr> <tr> <td>1サイクル冷却済燃料</td><td>1×（14ヶ月＋45日）</td><td>56 体</td><td>0. 082</td></tr> <tr> <td>小計（以上敦賀 1 号機使用済燃料）</td><td></td><td>637 体</td><td>0. 350</td></tr> <tr> <td>小計（敦賀 2 号機使用済燃料（表 3-1））</td><td></td><td>1541 体</td><td>2. 235</td></tr> <tr> <td>崩壊熱合計（MW）</td><td colspan="3">崩壊熱： 10. 395MW（燃料体数：2371 体）</td></tr> </table> 注 1：敦賀 2 号機の許認可における 48GWd/t 燃料平衡炉心相当の取替体数とし、運転実績から運転期間（照射期間）が長く、停止期間及び燃料取出期間（冷却期間）が短くなり保守的になるよう定めた条件 注 2：敦賀 2 号機の使用済燃料ピットの燃料保管容量は 2371 体（うち敦賀 2 号機用 1734 体、敦賀 1 号機用 637 体）	取出燃料	冷却期間	燃料数	崩壊熱（MW）	定検時取出燃料 3	<u>7. 5 日</u>	57 体	2. 417	定検時取出燃料 2	<u>7. 5 日</u>	68 体	2. 791	定検時取出燃料 1	<u>7. 5 日</u>	68 体	2. 602	小計（以上敦賀 2 号機定検時取出燃料）		193 体	7. 810	12サイクル冷却済燃料	12×（14ヶ月＋45日）	21 体	0. 005	11サイクル冷却済燃料	11×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 015	10サイクル冷却済燃料	10×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 016	9サイクル冷却済燃料	9×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 017	8サイクル冷却済燃料	8×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 019	7サイクル冷却済燃料	7×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 021	6サイクル冷却済燃料	6×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 024	5サイクル冷却済燃料	5×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 027	4サイクル冷却済燃料	4×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 032	3サイクル冷却済燃料	3×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 040	2サイクル冷却済燃料	2×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 053	1サイクル冷却済燃料	1×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 082	小計（以上敦賀 1 号機使用済燃料）		637 体	0. 350	小計（敦賀 2 号機使用済燃料（表 3-1））		1541 体	2. 235	崩壊熱合計（MW）	崩壊熱： 10. 395MW（燃料体数：2371 体）		
	取出燃料	冷却期間	燃料数	崩壊熱（MW）																																																																													
	定検時取出燃料 3	<u>7. 5 日</u>	57 体	2. 417																																																																													
	定検時取出燃料 2	<u>7. 5 日</u>	68 体	2. 791																																																																													
	定検時取出燃料 1	<u>7. 5 日</u>	68 体	2. 602																																																																													
	小計（以上敦賀 2 号機定検時取出燃料）		193 体	7. 810																																																																													
	12サイクル冷却済燃料	12×（14ヶ月＋45日）	21 体	0. 005																																																																													
	11サイクル冷却済燃料	11×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 015																																																																													
	10サイクル冷却済燃料	10×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 016																																																																													
	9サイクル冷却済燃料	9×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 017																																																																													
8サイクル冷却済燃料	8×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 019																																																																														
7サイクル冷却済燃料	7×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 021																																																																														
6サイクル冷却済燃料	6×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 024																																																																														
5サイクル冷却済燃料	5×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 027																																																																														
4サイクル冷却済燃料	4×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 032																																																																														
3サイクル冷却済燃料	3×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 040																																																																														
2サイクル冷却済燃料	2×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 053																																																																														
1サイクル冷却済燃料	1×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 082																																																																														
小計（以上敦賀 1 号機使用済燃料）		637 体	0. 350																																																																														
小計（敦賀 2 号機使用済燃料（表 3-1））		1541 体	2. 235																																																																														
崩壊熱合計（MW）	崩壊熱： 10. 395MW（燃料体数：2371 体）																																																																																
訂 正 後	表 2-2 燃料取出スキーム（敦賀 2 号機定検時取出燃料及び敦賀 1 号機より移送した燃料） <table> <tr> <th>取出燃料</th><th>冷却期間</th><th>燃料数</th><th>崩壊熱（MW）</th></tr> <tr> <td>定検時取出燃料 3</td><td><u>7. 5 日＋4 日</u></td><td>57 体</td><td>2. 417</td></tr> <tr> <td>定検時取出燃料 2</td><td><u>7. 5 日＋4 日</u></td><td>68 体</td><td>2. 791</td></tr> <tr> <td>定検時取出燃料 1</td><td><u>7. 5 日＋4 日</u></td><td>68 体</td><td>2. 602</td></tr> <tr> <td>小計（以上敦賀 2 号機定検時取出燃料）</td><td></td><td>193 体</td><td>7. 810</td></tr> <tr> <td>12サイクル冷却済燃料</td><td>12×（14ヶ月＋45日）</td><td>21 体</td><td>0. 005</td></tr> <tr> <td>11サイクル冷却済燃料</td><td>11×（14ヶ月＋45日）</td><td>56 体</td><td>0. 015</td></tr> <tr> <td>10サイクル冷却済燃料</td><td>10×（14ヶ月＋45日）</td><td>56 体</td><td>0. 016</td></tr> <tr> <td>9サイクル冷却済燃料</td><td>9×（14ヶ月＋45日）</td><td>56 体</td><td>0. 017</td></tr> <tr> <td>8サイクル冷却済燃料</td><td>8×（14ヶ月＋45日）</td><td>56 体</td><td>0. 019</td></tr> <tr> <td>7サイクル冷却済燃料</td><td>7×（14ヶ月＋45日）</td><td>56 体</td><td>0. 021</td></tr> <tr> <td>6サイクル冷却済燃料</td><td>6×（14ヶ月＋45日）</td><td>56 体</td><td>0. 024</td></tr> <tr> <td>5サイクル冷却済燃料</td><td>5×（14ヶ月＋45日）</td><td>56 体</td><td>0. 027</td></tr> <tr> <td>4サイクル冷却済燃料</td><td>4×（14ヶ月＋45日）</td><td>56 体</td><td>0. 032</td></tr> <tr> <td>3サイクル冷却済燃料</td><td>3×（14ヶ月＋45日）</td><td>56 体</td><td>0. 040</td></tr> <tr> <td>2サイクル冷却済燃料</td><td>2×（14ヶ月＋45日）</td><td>56 体</td><td>0. 053</td></tr> <tr> <td>1サイクル冷却済燃料</td><td>1×（14ヶ月＋45日）</td><td>56 体</td><td>0. 082</td></tr> <tr> <td>小計（以上敦賀 1 号機使用済燃料）</td><td></td><td>637 体</td><td>0. 350</td></tr> <tr> <td>小計（敦賀 2 号機使用済燃料（表 3-1））</td><td></td><td>1541 体</td><td>2. 235</td></tr> <tr> <td>崩壊熱合計（MW）</td><td colspan="3">崩壊熱： 10. 395MW（燃料体数：2371 体）</td></tr> </table> 注 1：敦賀 2 号機の許認可における 48GWd/t 燃料平衡炉心相当の取替体数とし、運転実績から運転期間（照射期間）が長く、停止期間及び燃料取出期間（冷却期間）が短くなり保守的になるよう定めた条件 注 2：敦賀 2 号機の使用済燃料ピットの燃料保管容量は 2371 体（うち敦賀 2 号機用 1734 体、敦賀 1 号機用 637 体）	取出燃料	冷却期間	燃料数	崩壊熱（MW）	定検時取出燃料 3	<u>7. 5 日＋4 日</u>	57 体	2. 417	定検時取出燃料 2	<u>7. 5 日＋4 日</u>	68 体	2. 791	定検時取出燃料 1	<u>7. 5 日＋4 日</u>	68 体	2. 602	小計（以上敦賀 2 号機定検時取出燃料）		193 体	7. 810	12サイクル冷却済燃料	12×（14ヶ月＋45日）	21 体	0. 005	11サイクル冷却済燃料	11×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 015	10サイクル冷却済燃料	10×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 016	9サイクル冷却済燃料	9×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 017	8サイクル冷却済燃料	8×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 019	7サイクル冷却済燃料	7×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 021	6サイクル冷却済燃料	6×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 024	5サイクル冷却済燃料	5×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 027	4サイクル冷却済燃料	4×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 032	3サイクル冷却済燃料	3×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 040	2サイクル冷却済燃料	2×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 053	1サイクル冷却済燃料	1×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 082	小計（以上敦賀 1 号機使用済燃料）		637 体	0. 350	小計（敦賀 2 号機使用済燃料（表 3-1））		1541 体	2. 235	崩壊熱合計（MW）	崩壊熱： 10. 395MW（燃料体数：2371 体）		
	取出燃料	冷却期間	燃料数	崩壊熱（MW）																																																																													
	定検時取出燃料 3	<u>7. 5 日＋4 日</u>	57 体	2. 417																																																																													
	定検時取出燃料 2	<u>7. 5 日＋4 日</u>	68 体	2. 791																																																																													
	定検時取出燃料 1	<u>7. 5 日＋4 日</u>	68 体	2. 602																																																																													
	小計（以上敦賀 2 号機定検時取出燃料）		193 体	7. 810																																																																													
	12サイクル冷却済燃料	12×（14ヶ月＋45日）	21 体	0. 005																																																																													
	11サイクル冷却済燃料	11×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 015																																																																													
	10サイクル冷却済燃料	10×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 016																																																																													
	9サイクル冷却済燃料	9×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 017																																																																													
8サイクル冷却済燃料	8×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 019																																																																														
7サイクル冷却済燃料	7×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 021																																																																														
6サイクル冷却済燃料	6×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 024																																																																														
5サイクル冷却済燃料	5×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 027																																																																														
4サイクル冷却済燃料	4×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 032																																																																														
3サイクル冷却済燃料	3×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 040																																																																														
2サイクル冷却済燃料	2×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 053																																																																														
1サイクル冷却済燃料	1×（14ヶ月＋45日）	56 体	0. 082																																																																														
小計（以上敦賀 1 号機使用済燃料）		637 体	0. 350																																																																														
小計（敦賀 2 号機使用済燃料（表 3-1））		1541 体	2. 235																																																																														
崩壊熱合計（MW）	崩壊熱： 10. 395MW（燃料体数：2371 体）																																																																																
訂 正 内 容 の 説 明	【訂正箇所】 燃料取出スキームにおける定検時取出燃料の冷却期間について、誤った数値を記載していたため、正しい数値に訂正する。（本資料では、訂正箇所を下線で表示） 【確認結果】 使用済燃料ピットへの補給水量算定に用いる崩壊熱については、正しい冷却期間（7. 5 日＋4 日）で計算していることから、評価結果に影響はない。 注：＋4 日は燃料取出完了直後から燃料が露出するまでの期間。																																																																																

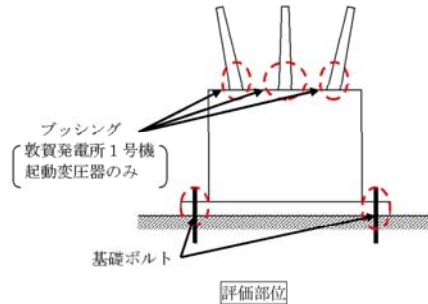
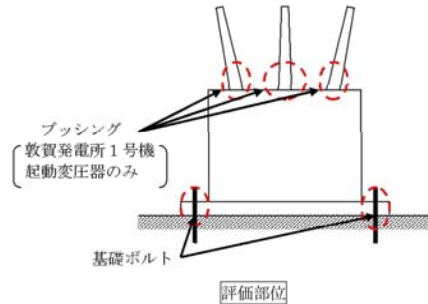
「平成23年福島第一原子力発電所事故を踏まえたシビアアクシデントへの対応に関する措置に係る実施状況報告書」
訂正前後比較表 【訂正箇所】P8: 添付資料－1

訂 正 前	訂 正 後	訂正内容の説明
中央制御室の作業環境の確保 ○中央制御室にて高放射線が検知された場合等に、中央制御室非常用循環ファンが自動起動し、ダンパが切り替えることにより中央制御室の空調は閉回路循環運転となり、フィルタを通すことで浄化されるが、全ての交流電源が喪失すると、非常用循環ファン等が使用できないため、徐々に居住性が失われる。このため、全交流電源喪失時に中央制御室空調設備を閉回路循環で運転する手順を整備した。 【東海第二発電所（BWR）】  【敦賀発電所 1号機（BWR）】  【敦賀発電所 2号機（PWR）】 	中央制御室の作業環境の確保 ○中央制御室にて高放射線が検知された場合等に、中央制御室非常用循環ファンが自動起動し、ダンパが切り替えることにより中央制御室の空調は閉回路循環運転となり、フィルタを通すことで浄化されるが、全ての交流電源が喪失すると、非常用循環ファン等が使用できないため、徐々に居住性が失われる。このため、全交流電源喪失時に中央制御室空調設備を閉回路循環で運転する手順を整備した。 【東海第二発電所（BWR）】  【敦賀発電所 1号機（BWR）】  【敦賀発電所 2号機（PWR）】 	【訂正箇所】 東海第二発電所における電源車からの接続ケーブル敷設図について、誤った記載をしていたため、正しい記載に訂正する。 （本資料では、訂正箇所を赤枠で表示） 【確認結果】 ケーブル敷設図の記載誤りであり、全交流電源喪失時における中央制御室空調設備の閉回路循環運転手順に問題はない。 なお、訓練等において、電源車からのケーブル接続が確実に実施できることを確認している。

「平成23年福島第一原子力発電所事故を踏まえたシビアアクシデントへの対応に関する措置に係る実施状況報告書」
訂正前後比較表 【訂正箇所】P12:添付資料－5

訂 正 前	訂 正 後	訂正内容の説明																																																																
がれき撤去用の重機の配備 ○津波発生後、アクセス道路に散乱するがれき類を除去するため、各発電所にホイールローダを1台配備した。 東海第二発電所：平成23年4月11日配備済み 敦賀発電所：平成23年4月15日配備済み ○津波の影響を受けない高所に配備した。 東海第二発電所：E L約20.6m 構外グラウンド 敦賀発電所：E L約22.5m 敦賀原子力館敷地 ○がれき撤去を迅速に行うため、各発電所にホイールローダを追加配備する。 (平成23年9月末頃完了予定) 【ホイールローダ（東海第二発電所）】  <table><tr><td>仕様</td></tr><tr><td>コベルコ LK40Z-3</td></tr><tr><td>全 長 約4.0m</td></tr><tr><td>全 幅 約1.5m</td></tr><tr><td>高 さ 約2.5m</td></tr><tr><td>重 量 約2.6t</td></tr><tr><td>掘起力 2,830kgf</td></tr><tr><td>最大牽引力 2,600kgf</td></tr><tr><td>バケット容量 0.4m³</td></tr><tr><td>常用荷重 <u>700kgf</u></td></tr></table> 【ホイールローダ（敦賀発電所）】  <table><tr><td>仕様</td></tr><tr><td>クボタ R330</td></tr><tr><td>全 長 約3.3m</td></tr><tr><td>全 幅 約1.3m</td></tr><tr><td>高 さ 約2.5m</td></tr><tr><td>重 量 約1.6t</td></tr><tr><td>掘起力 2,280kgf</td></tr><tr><td>最大牽引力 1,600kgf</td></tr><tr><td>バケット容量 0.26m³</td></tr><tr><td>常用荷重 400kgf</td></tr></table> 【ホイールローダへの燃料供給方法】 燃料タンクの軽油をドラム缶に受けた後、ホイールローダに補給。 <table><tr><th colspan="2">東 海 第 二 発 電 所</th></tr><tr><td>DG燃料貯蔵タンク (1基)</td><td>約650kℓ</td></tr></table> <table><tr><th colspan="2">敦 賀 発 電 所</th></tr><tr><td>2号機補助ボイラ燃料タンク (1基)</td><td>約200～400kℓ</td></tr><tr><td>1号機DG燃料貯蔵タンク (2基)</td><td>約120kℓ/基</td></tr><tr><td>2号機DG燃料貯蔵タンク (2基)</td><td>約230kℓ/基</td></tr></table> 	仕様	コベルコ LK40Z-3	全 長 約4.0m	全 幅 約1.5m	高 さ 約2.5m	重 量 約2.6t	掘起力 2,830kgf	最大牽引力 2,600kgf	バケット容量 0.4m ³	常用荷重 <u>700kgf</u>	仕様	クボタ R330	全 長 約3.3m	全 幅 約1.3m	高 さ 約2.5m	重 量 約1.6t	掘起力 2,280kgf	最大牽引力 1,600kgf	バケット容量 0.26m ³	常用荷重 400kgf	東 海 第 二 発 電 所		DG燃料貯蔵タンク (1基)	約650kℓ	敦 賀 発 電 所		2号機補助ボイラ燃料タンク (1基)	約200～400kℓ	1号機DG燃料貯蔵タンク (2基)	約120kℓ/基	2号機DG燃料貯蔵タンク (2基)	約230kℓ/基	がれき撤去用の重機の配備 ○津波発生後、アクセス道路に散乱するがれき類を除去するため、各発電所にホイールローダを1台配備した。 東海第二発電所：平成23年4月11日配備済み 敦賀発電所：平成23年4月15日配備済み ○津波の影響を受けない高所に配備した。 東海第二発電所：E L約20.6m 構外グラウンド 敦賀発電所：E L約22.5m 敦賀原子力館敷地 ○がれき撤去を迅速に行うため、各発電所にホイールローダを追加配備する。 (平成23年9月末頃完了予定) 【ホイールローダ（東海第二発電所）】  <table><tr><td>仕様</td></tr><tr><td>コベルコ LK40Z-3</td></tr><tr><td>全 長 約4.0m</td></tr><tr><td>全 幅 約1.5m</td></tr><tr><td>高 さ 約2.5m</td></tr><tr><td>重 量 約2.6t</td></tr><tr><td>掘起力 2,830kgf</td></tr><tr><td>最大牽引力 2,600kgf</td></tr><tr><td>バケット容量 0.4m³</td></tr><tr><td>常用荷重 <u>650kgf</u></td></tr></table> 【ホイールローダ（敦賀発電所）】  <table><tr><td>仕様</td></tr><tr><td>クボタ R330</td></tr><tr><td>全 長 約3.3m</td></tr><tr><td>全 幅 約1.3m</td></tr><tr><td>高 さ 約2.5m</td></tr><tr><td>重 量 約1.6t</td></tr><tr><td>掘起力 2,280kgf</td></tr><tr><td>最大牽引力 1,600kgf</td></tr><tr><td>バケット容量 0.26m³</td></tr><tr><td>常用荷重 400kgf</td></tr></table> 【ホイールローダへの燃料供給方法】 燃料タンクの軽油をドラム缶に受けた後、ホイールローダに補給。 <table><tr><th colspan="2">東 海 第 二 発 電 所</th></tr><tr><td>DG燃料貯蔵タンク (1基)</td><td>約650kℓ</td></tr></table> <table><tr><th colspan="2">敦 賀 発 電 所</th></tr><tr><td>2号機補助ボイラ燃料タンク (1基)</td><td>約200～400kℓ</td></tr><tr><td>1号機DG燃料貯蔵タンク (2基)</td><td>約120kℓ/基</td></tr><tr><td>2号機DG燃料貯蔵タンク (2基)</td><td>約230kℓ/基</td></tr></table> 	仕様	コベルコ LK40Z-3	全 長 約4.0m	全 幅 約1.5m	高 さ 約2.5m	重 量 約2.6t	掘起力 2,830kgf	最大牽引力 2,600kgf	バケット容量 0.4m ³	常用荷重 <u>650kgf</u>	仕様	クボタ R330	全 長 約3.3m	全 幅 約1.3m	高 さ 約2.5m	重 量 約1.6t	掘起力 2,280kgf	最大牽引力 1,600kgf	バケット容量 0.26m ³	常用荷重 400kgf	東 海 第 二 発 電 所		DG燃料貯蔵タンク (1基)	約650kℓ	敦 賀 発 電 所		2号機補助ボイラ燃料タンク (1基)	約200～400kℓ	1号機DG燃料貯蔵タンク (2基)	約120kℓ/基	2号機DG燃料貯蔵タンク (2基)	約230kℓ/基	【訂正箇所】 ホイールローダ（東海第二発電所）の仕様について、常用荷重値に誤った数値を記載していたため、正しい数値に訂正する。 (本資料では、訂正箇所を下線で表示) 【確認結果】 ホイールローダに要求される性能を示す掘起力に誤りはないため、実際にがれきを撤去するうえでの影響はない。 【参考】 ホイールローダへの燃料供給方法説明図のなかで、燃料給油口の位置表示がずれているため、正しい位置に訂正する。 (本資料では、訂正箇所を下線で表示)
仕様																																																																		
コベルコ LK40Z-3																																																																		
全 長 約4.0m																																																																		
全 幅 約1.5m																																																																		
高 さ 約2.5m																																																																		
重 量 約2.6t																																																																		
掘起力 2,830kgf																																																																		
最大牽引力 2,600kgf																																																																		
バケット容量 0.4m ³																																																																		
常用荷重 <u>700kgf</u>																																																																		
仕様																																																																		
クボタ R330																																																																		
全 長 約3.3m																																																																		
全 幅 約1.3m																																																																		
高 さ 約2.5m																																																																		
重 量 約1.6t																																																																		
掘起力 2,280kgf																																																																		
最大牽引力 1,600kgf																																																																		
バケット容量 0.26m ³																																																																		
常用荷重 400kgf																																																																		
東 海 第 二 発 電 所																																																																		
DG燃料貯蔵タンク (1基)	約650kℓ																																																																	
敦 賀 発 電 所																																																																		
2号機補助ボイラ燃料タンク (1基)	約200～400kℓ																																																																	
1号機DG燃料貯蔵タンク (2基)	約120kℓ/基																																																																	
2号機DG燃料貯蔵タンク (2基)	約230kℓ/基																																																																	
仕様																																																																		
コベルコ LK40Z-3																																																																		
全 長 約4.0m																																																																		
全 幅 約1.5m																																																																		
高 さ 約2.5m																																																																		
重 量 約2.6t																																																																		
掘起力 2,830kgf																																																																		
最大牽引力 2,600kgf																																																																		
バケット容量 0.4m ³																																																																		
常用荷重 <u>650kgf</u>																																																																		
仕様																																																																		
クボタ R330																																																																		
全 長 約3.3m																																																																		
全 幅 約1.3m																																																																		
高 さ 約2.5m																																																																		
重 量 約1.6t																																																																		
掘起力 2,280kgf																																																																		
最大牽引力 1,600kgf																																																																		
バケット容量 0.26m ³																																																																		
常用荷重 400kgf																																																																		
東 海 第 二 発 電 所																																																																		
DG燃料貯蔵タンク (1基)	約650kℓ																																																																	
敦 賀 発 電 所																																																																		
2号機補助ボイラ燃料タンク (1基)	約200～400kℓ																																																																	
1号機DG燃料貯蔵タンク (2基)	約120kℓ/基																																																																	
2号機DG燃料貯蔵タンク (2基)	約230kℓ/基																																																																	

「原子力発電所等の外部電源の信頼性確保に係る開閉所等の地震対策について」補正前後比較表
【補正箇所】 P 4 : 表 4 当社原子力発電所の変圧器設備に対する評価状況について

補 正 前					補 正 後					補正内容の説明																																																																														
表4 当社原子力発電所の変圧器設備に対する評価状況について					表4 当社原子力発電所の変圧器設備に対する評価状況について					【補正内容】 変圧器設備に対する評価状況における東海第二発電所の予備変圧器について、冷却器交換（平成20年度）前の図面を用いていたことから、地震影響評価に使用する入力データである予備変圧器重量に誤りが生じ、その結果、誤った裕度の記載となった。 このため、最新の図面を基にした予備変圧器重量を用いて裕度を算定し直し、正しい数値に訂正する。 （本資料では、補正箇所を下線で表示）																																																																														
<table><tr><th colspan="2">発電所・号機</th><th>変圧器名称</th><th>電圧</th><th>裕度</th><th>評価部位</th></tr><tr><td colspan="2" rowspan="3">東海第二発電所</td><td>起動変圧器2A</td><td>275kV/6.9kV</td><td>1.98</td><td>基礎ボルト</td></tr><tr><td>起動変圧器2B</td><td>275kV/6.9kV</td><td>1.98</td><td>基礎ボルト</td></tr><tr><td>予備変圧器</td><td>154kV/6.9kV</td><td>2.70</td><td>基礎ボルト</td></tr><tr><td rowspan="4">敦賀発電所</td><td rowspan="2">1号機</td><td>起動変圧器</td><td>275kV/6.9kV</td><td>4.14 (1.74)</td><td>基礎ボルト (気中プッシング)</td></tr><tr><td>予備変圧器</td><td>77kV/6.9kV</td><td>2.47</td><td>基礎ボルト</td></tr><tr><td rowspan="2">2号機</td><td>起動変圧器</td><td>500kV/6.9kV</td><td>1.14</td><td>基礎ボルト</td></tr><tr><td>予備変圧器</td><td>275kV/6.9kV</td><td>1.99</td><td>基礎ボルト</td></tr></table>					発電所・号機		変圧器名称	電圧	裕度		評価部位	東海第二発電所		起動変圧器2A	275kV/6.9kV	1.98	基礎ボルト	起動変圧器2B	275kV/6.9kV	1.98	基礎ボルト	予備変圧器	154kV/6.9kV	2.70	基礎ボルト	敦賀発電所	1号機	起動変圧器	275kV/6.9kV	4.14 (1.74)	基礎ボルト (気中プッシング)	予備変圧器	77kV/6.9kV	2.47	基礎ボルト	2号機	起動変圧器	500kV/6.9kV	1.14	基礎ボルト	予備変圧器	275kV/6.9kV	1.99	基礎ボルト	<table><tr><th colspan="2">発電所・号機</th><th>変圧器名称</th><th>電圧</th><th>裕度</th><th>評価部位</th></tr><tr><td colspan="2" rowspan="3">東海第二発電所</td><td>起動変圧器2A</td><td>275kV/6.9kV</td><td>1.98</td><td>基礎ボルト</td></tr><tr><td>起動変圧器2B</td><td>275kV/6.9kV</td><td>1.98</td><td>基礎ボルト</td></tr><tr><td>予備変圧器</td><td>154kV/6.9kV</td><td><u>2.64</u></td><td>基礎ボルト</td></tr><tr><td rowspan="4">敦賀発電所</td><td rowspan="2">1号機</td><td>起動変圧器</td><td>275kV/6.9kV</td><td>4.14 (1.74)</td><td>基礎ボルト (気中プッシング)</td></tr><tr><td>予備変圧器</td><td>77kV/6.9kV</td><td>2.47</td><td>基礎ボルト</td></tr><tr><td rowspan="2">2号機</td><td>起動変圧器</td><td>500kV/6.9kV</td><td>1.14</td><td>基礎ボルト</td></tr><tr><td>予備変圧器</td><td>275kV/6.9kV</td><td>1.99</td><td>基礎ボルト</td></tr></table>					発電所・号機		変圧器名称	電圧	裕度	評価部位	東海第二発電所		起動変圧器2A	275kV/6.9kV	1.98	基礎ボルト	起動変圧器2B	275kV/6.9kV	1.98	基礎ボルト	予備変圧器	154kV/6.9kV	<u>2.64</u>	基礎ボルト	敦賀発電所	1号機	起動変圧器	275kV/6.9kV	4.14 (1.74)	基礎ボルト (気中プッシング)	予備変圧器	77kV/6.9kV	2.47	基礎ボルト	2号機	起動変圧器	500kV/6.9kV	1.14	基礎ボルト	予備変圧器	275kV/6.9kV	1.99	基礎ボルト
発電所・号機		変圧器名称	電圧	裕度	評価部位																																																																																			
東海第二発電所		起動変圧器2A	275kV/6.9kV	1.98	基礎ボルト																																																																																			
		起動変圧器2B	275kV/6.9kV	1.98	基礎ボルト																																																																																			
		予備変圧器	154kV/6.9kV	2.70	基礎ボルト																																																																																			
敦賀発電所	1号機	起動変圧器	275kV/6.9kV	4.14 (1.74)	基礎ボルト (気中プッシング)																																																																																			
		予備変圧器	77kV/6.9kV	2.47	基礎ボルト																																																																																			
	2号機	起動変圧器	500kV/6.9kV	1.14	基礎ボルト																																																																																			
		予備変圧器	275kV/6.9kV	1.99	基礎ボルト																																																																																			
発電所・号機		変圧器名称	電圧	裕度	評価部位																																																																																			
東海第二発電所		起動変圧器2A	275kV/6.9kV	1.98	基礎ボルト																																																																																			
		起動変圧器2B	275kV/6.9kV	1.98	基礎ボルト																																																																																			
		予備変圧器	154kV/6.9kV	<u>2.64</u>	基礎ボルト																																																																																			
敦賀発電所	1号機	起動変圧器	275kV/6.9kV	4.14 (1.74)	基礎ボルト (気中プッシング)																																																																																			
		予備変圧器	77kV/6.9kV	2.47	基礎ボルト																																																																																			
	2号機	起動変圧器	500kV/6.9kV	1.14	基礎ボルト																																																																																			
		予備変圧器	275kV/6.9kV	1.99	基礎ボルト																																																																																			
																																																																																								
開閉所設備については、5(1)項で述べたとおり地表面からの共振周波数の正弦波3波入力による加速度応答倍率 6.1 が過去の地震データをほぼ包絡していることを踏まえ、上記の地表面からの共振周波数の正弦波2波入力(加速度応答倍率 4.7)に相当する評価結果において、裕度が加速度応答倍率の比(6.1/4.7)=1.3 以上であれば、過去の大規模地震を考慮しても機能不全となる倒壊、損傷等が発生する可能性は低いものと見なすことができる。また、変圧器については5(2)項で述べたとおり、固有振動数を外れていることから、裕度が 1.0 以上であれば、機能不全となる倒壊、損傷等が発生する可能性は低いものと見なすことができる。 7. 今後の対応について 今回、開閉所設備と変圧器設備については、JEAG5003-2010 の手法にて評価した。 開閉所の評価結果として、東海第二発電所 154kV 開閉所については、裕度が 1.3 を下					開閉所設備については、5(1)項で述べたとおり地表面からの共振周波数の正弦波3波入力による加速度応答倍率 6.1 が過去の地震データをほぼ包絡していることを踏まえ、上記の地表面からの共振周波数の正弦波2波入力(加速度応答倍率 4.7)に相当する評価結果において、裕度が加速度応答倍率の比(6.1/4.7)=1.3 以上であれば、過去の大規模地震を考慮しても機能不全となる倒壊、損傷等が発生する可能性は低いものと見なすことができる。また、変圧器については5(2)項で述べたとおり、固有振動数を外れていることから、裕度が 1.0 以上であれば、機能不全となる倒壊、損傷等が発生する可能性は低いものと見なすことができる。 7. 今後の対応について 今回、開閉所設備と変圧器設備については、JEAG5003-2010 の手法にて評価した。 開閉所の評価結果として、東海第二発電所 154kV 開閉所については、裕度が 1.3 を下																																																																																			